

上毛電鉄デハ 101 貸切乗車会報告

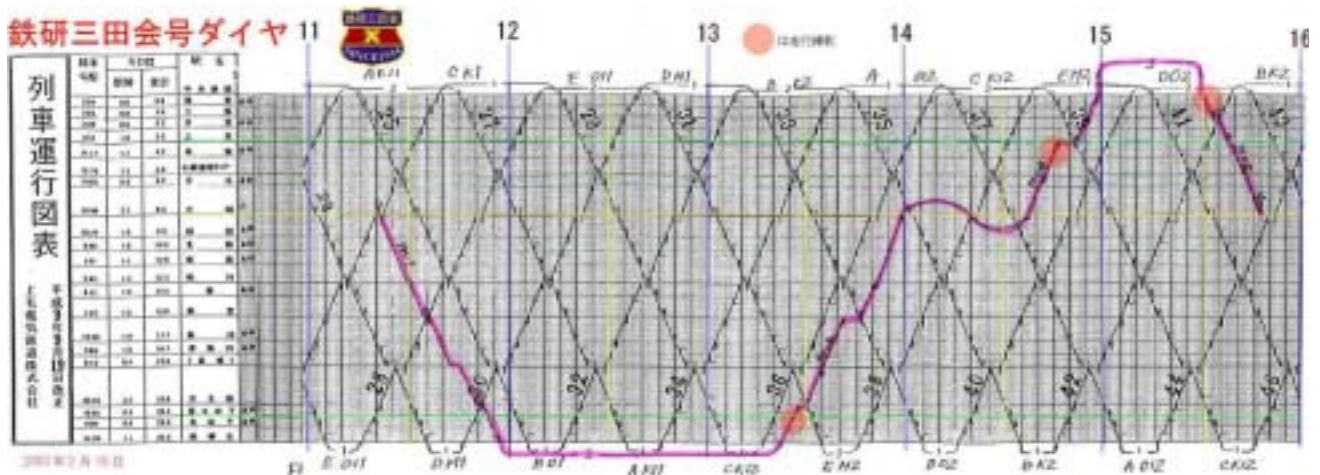
2003年2月16日(日)群馬県を走る上毛電鉄の最古参デハ101を一日貸し切って釣掛電車の旅を楽しんだ。デハ101は昭和3年川崎車輛製、今年で75歳になるが、現在では保線の貨車牽引とイベントに活躍しているのみである。

当日はあいにく小雨まじりの天気だったが、



午前10時30分上毛電鉄大胡駅には会員とその家族43名が集まった。早速、大胡車両区に行くところにはお目当てのデハ101が

形式写真にお誘え向きの場所に止めてあった。西桐生方の正面には前もって送ってあった当会オリジナルのヘッドマークがすでに取り付けられており、全員形式写真の撮影に取りかかった。曇天のおかげで各自思い思いのアングルから撮影を楽しむことができた。このヘッドマークはパソコンで作成したもので、手持ちのプリンタがA2までしか印刷できないので少々小振





りだったが、中央前橋方は前面貫通のため取付位置が偏り丁度よい大きさだった。作成で一番悩んだのがその取付方法で、前面には方向板受け以外手すりなどないため、どうしたらよいかと思案した。プリントをハレパネに貼り、表面には雨対策(やっておいてよかった)でラミネートフィルムを貼ったもので、先方には「使用後は壊れてもかまわないから取付方法はお任せします」といっておいた。結局、方向板に治具を入れ、それに強力両面テープで留める方法が取られたが、

走行中剥がれやすいかと心配だった。

全員で記念撮影後、大胡駅に戻りデハ101の入線を待つうち、ポツリポツリと冷たいものが空から落ちてきた。中央前橋方(ヘッドマーク

のない姿も撮りたかったのでこちらは車庫での撮影後に取り付けてもらうようお願いしていた)にもヘッドマークが取り付けられ、11時21分定刻に臨時列車1001レは西桐生に向けて発車した。座席定員は48名なのでほぼ満席、しばし皆懐かしい釣り掛けの音に聞き惚れた。齋藤会長の挨拶

の後、上毛電鉄さんからグッズの車内販売が始まった。車両イラスト

集、在籍車両全形式の竣工図集、デハ101のタイプピンやマグカップ、未使用の硬券セット、定期券・回数券セットなど涎の垂れそうなものがたくさんあり、狭い

車内では商品を選ぶのに大変だった。東武桐生線との併走区間を過ぎるとまもなく渡良瀬川鉄橋を渡り11時56分西桐生に到着した。ここで、デハ101は我々の昼食のため約1時間半待っていてくれる。





昼食を取り終え表に出ると雨足が激しくなってきたが、貪欲な会員たちは貸切電車の1本前の13時15分西桐生発の営業電車で撮影ポイントの富士山下へ向かった。上毛電鉄さんのはからいで営業電車に乗る際も胸に着けたりポンを示せばフリーパスとしていただいた。13時22分臨時列車1002レは西桐生を発車し、途中渡良瀬川鉄橋のたもと、富士山下で臨時停車し撮影組を拾ってくれたが、ダイヤ上ほとんど停車時間がないため撮影組は全員駆け足でデハ101に

西桐生では遅れて参加の会員と合流し、本日の昼食会場「ふる川」へ入った。ここは地元在住の瓜谷会員の紹介で、名物のひもかわ(なんと幅5cmもある)と天ぷらを賞味した。座敷を二間借り切ったが、それでも溢れ一部の人には一般客席に入ってもらった。桐生はうどんの街として知られ、市内にはいろいろな店がある。



飛び乗った。貸切電車は13時59分再び大胡に戻ってきたが、その先の撮影ポイントでも貸切電車を撮れるように後続の営業電車を先に通してもらったため、再度形式写真撮影のチャンスに恵まれた。さらに雨足が強まったにもかかわらず有志は



14時22分発の電車に乗り撮影ポイント、上泉に先回りした。14時37分臨時列車1004レは大胡を発車、「何とか晴れてくれ」という皆の願い



らぶシーンもあり、変化に富んだ写真が撮れた。15時30分臨時列車1005レは終点大胡に向けて発車、大部分の者はその発車シーンを撮ろうと乗車せずに広瀬川沿いでカメラを構えたが、乗車組には録音派のため車内では静粛を保つようお願いし、釣り掛けの音を存分に録ってもらった。15時47分、デハ101は無事終点大胡に到着、入庫、車庫ではヘッドマークの取り外しにかかったが、前日貼られた西桐生方は見事に壊れた。しかし、当日貼った中央前橋方は無事回収できた。

もむなく通過していった。1004レは上泉で5分停車だったので、一部の強者は走り撮った後駆け足で乗り込んで、再び乗車を楽しんだ。14時58分デハ101は中央前橋に到着、写真を撮りやすいように広瀬川沿いの3番線に入れてもらった。雨も止んで京王井の頭線からやってきた電車710形2本とな



残念ながら天候はかなり悪かったが、乗って、食べて、撮れて、3拍子揃った楽しいひとときを過ごすことができた。計画当初は20名も集まればいい方かと思っていたのが、最終的には43名も集まり、貸切代の70000円は当日の会費で全額賄うことができ、企画幹事としてホッとしている。

最後に我々の贅沢な願いを聞き入れていただいた上毛電鉄総務部の阿部さんを始めご担当の方には大変ありがたく心から感謝申し上げます。



晴れたら赤城山をバックにすばらしい写真が撮れたであろう上泉付近に行く

